

「地図豆」の地図を広げて街歩き

62-1 上野の山のいまむかし（距離約 5.0km）



上野駅

【街歩きの概要】

江戸時代から桜の名所として知られていたという上野の山。どのような変遷を経て、今の姿になったのかを知り、江戸の名残、明治の名残をみつけながら街歩きをする。

【道順】

東京メトロ湯島駅→湯島天神（几号水準点）→旧岩崎邸→藍染川（忍川）→境稲荷神社と弁慶鏡ヶ井戸→上野広小路→不忍池→黒門跡→清水観音堂→天海僧正毛髪塔→彰義隊「戦死之墓」→上野の山と摺鉢山→上野大仏→上野東照宮→寛永寺五重塔・東照宮→東照宮几号水準点→ボードワン像→旧池田家屋敷門（黒門）→旧東京音楽学校奏楽堂→京成電鉄博物館動物園駅跡→黒田記念館→帝国図書館（国際子ども図書館）→寛永寺→浄名院几号水準点→京成電鉄寛永寺坂駅跡→綱吉霊廟勅額門→家綱霊廟勅額門→寛永寺日本坊表門（黒門）・両大師堂→上野駅

地図豆辞典：山の始まりもわからない

山の終わり（てっぺん）は明らかでも、それがどこからはじまるのか、ということも非常に曖昧である。それどころか、「山とはどのようなもの」と、問われても答えに窮する。私は、「平地より高く隆起したところであって、高さの大小で決められるものではない」と答えてきた。さらには、「古くは『森』とは、木がこんもりと盛り上がったところ。転じて、人の住まない野でも里でもないところ、開墾の手の入っていないところを『森』と呼び、盛り上がったところ（『山』）と同意語となった」とも答えてきた。

そして、関東平野などの平地に住まいする人は、いまでも、そこいらの森や林に入ることを「山に行く」といっているように、一般に平地にすむ人は、かなり低いところから山といい、山村の人は、ごく高いところでも里と呼んでいて、呼び方に決まりはない。

住まいする人、山登りをする人などが土地の高まりを見て、「ココは山だ」と呼べばよいこと、定義すればよいことなのである。



仙台市宮城野区の「日和山」標高 6m)

2011年3月11日の東日本大震災震災で消失して、この姿はもうない。

山が高さとは関係しないとなると、標高数mでも山と呼ぶから、地元の人が呼んでいるものをすべて網羅したら、日本は山だらけになる。一方では、標高が1,000mある高まりでも、地元でも固有名で呼ばれない、地図にも名前がない峰も登場する。

近所のある人が、その辺にある高まりを「カチカチ山」と呼んでも、住民が共通して「カチカチ山」と呼ばなければ、地図には記入されない。このように地図の作り手（国土地理院）に、「（この辺りには）住民が共通して呼んでいる山が無い」と判断とされた場合には記載されない。

こうなると「山の無い市町村」すなわち地形図に山の名称が全く記載されていない市町村があるかもしれない。可能性としては、平地部にある市町村などに多くあるはずで、それは当然のことだ。

ところが山間地に住む人は、少々の峰など気にもとめないだろうから、そうした市町村の地図には、少々の高い山があっても山（名）の記入がないかもしれない。

短時間で調べた結果であるが、長野県東筑摩郡山形村は、最高地点が 1740m もあるものの、地形図には山（名）が一つも無い。榛名山麓にある群馬県北群馬郡吉岡町も、最高地点は 920m であるが、ここにも山（名）が無い（2011 年 7 月現在）。いずれも、町村区域全体が傾斜地にあつて、しかも町村界が山の最高地点に達していないという特徴がある。



地形図に山名の無い町（群馬県北群馬郡吉岡町 20 万分の 1 地勢図「前橋

地図豆辞典：上野公園

江戸時代から桜の名所として知られた上野の山は、もちろんのこと徳川將軍家の菩提寺東叡山寛永寺のあるお山であり、山全体が寺域であったから多くの諸堂と末寺が立ち並んでいた。そのようすは、「江戸切絵図」で明らかだ。

その江戸の鬼門に位置する寛永寺は、京都にける比叡山と対をなすものである。そして、清水観音、不忍池、弁天堂、大仏もまた、清水寺、琵琶湖、竹生島（弁財天）、方広寺大仏を模した形になっている。

慶応 4 年（1868）上野戦争が起き、被害を受けてからのちの上野の山は大きく様変わりする。当地を訪れたオランダ人医師ボードウィンによって、公園とすることが進言される。そして、明治 6 年（1873）公園として選定され、整備が始められる。

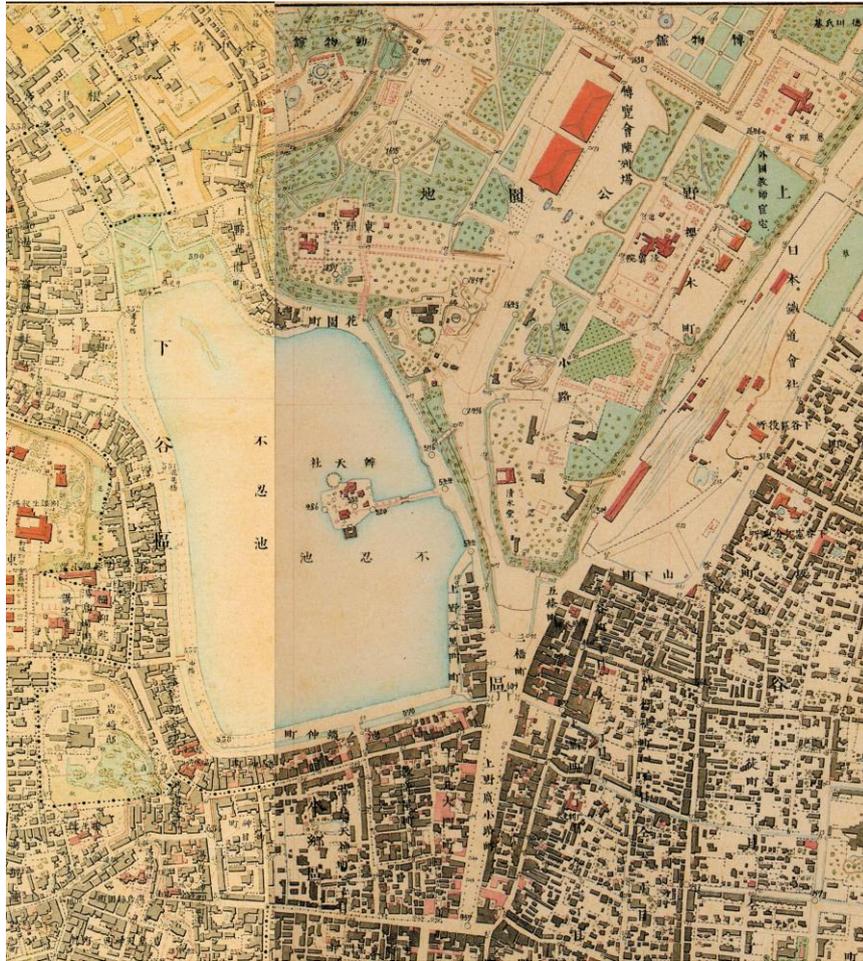
明治 9 年に上野公園が開園、翌同 10 年に第一回内国勸業博覧会が、同 14 年には第二回の内国勸業博覧会が開かれ、さらにはあたりは一変する。その後、上野動物園（1882）や国立科学博物館（1877 設置、1930 上野へ移転）が、寛永寺根本中堂跡には国立博物館（1882）が開館し、さらに複数の美術館も整備されて上野の山は文化・芸術の森となっていく。

地図豆知識：地図から上野の変遷を見る



「江戸切絵図」（文久2年（1862））

「江戸切絵図」（1862）のころ、辺りはすべて徳川将軍家の菩提寺 寛永寺の敷地であった。同時に、制限付きとはいえ、身近に小京都が体験できる桜の名所として、江戸市民の憩いの場所として、広く解放されていた。そのころ、日没とともに閉じられたのだという黒門や寛永寺参道に架かる三橋が読みとれる。

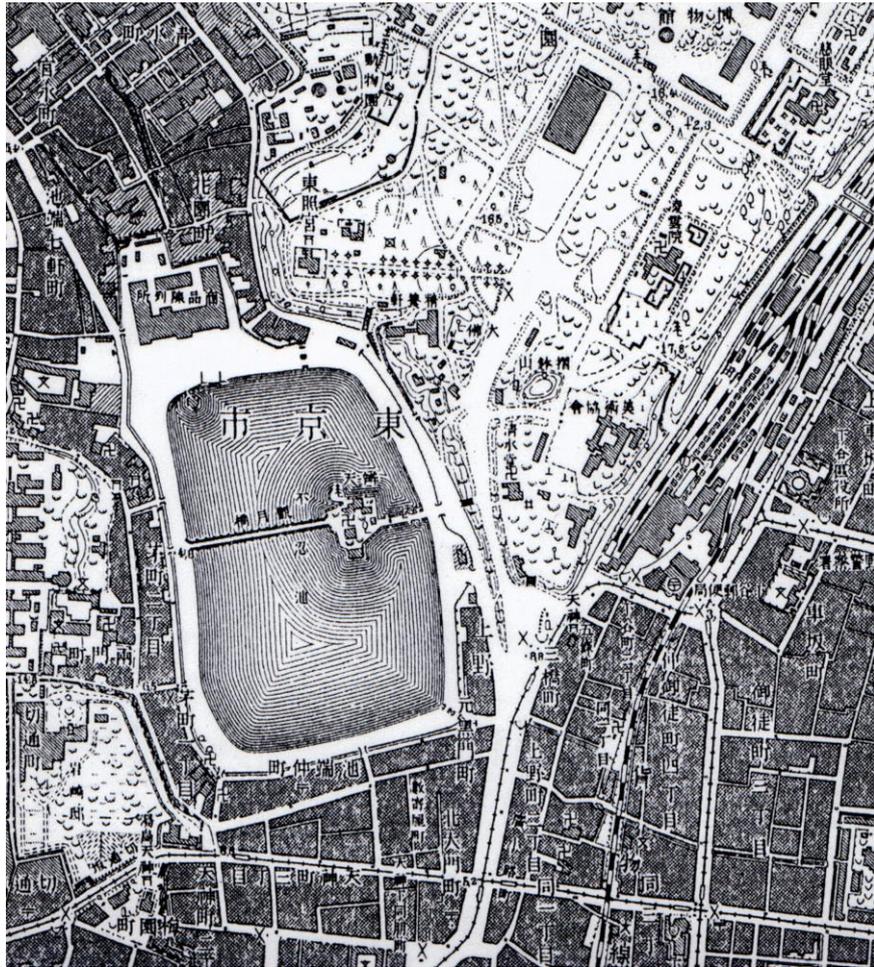


「五千分の一東京図」(明治17年(1884)測量)

明治6年公園として選定され、整備が始められた上野公園には、第2回内国勸業博覧会(明治14年 1881)が行われたころを反映した陳列場の建物や動物館(明治9年開園)が見える。江戸切絵図に寛永寺の末寺(僧坊)が並んでいた辺りには、やはり同14年に開業した日本鉄道会社の鉄道が北へと伸びているようすが見える。同16年には、上野-熊谷間が開通した。

不忍池の周囲には、明治17年(1884)に設立し、翌年から競技が行われた上野共同競馬場があったが、地図にはその表現はない。その後明治25年(1892)には廃止されたから、地図の上に表現されることはなかったようだ。

寛永寺参道に架かる三橋は、第三回内国勸業博覧会(明治23年)のとき、混雑を予想して一つにしたといわれるのだが、それ以前の橋のようすが読み取れる。



1 万分の 1 地形図「上野」（大正 5 年（1916）修正）

鉄道の整備などに顕著な変化が見られる。この間に、明治 30 年（1897）上野-青森の直通運転が開始され、明治 42 年（1909）には、上野-新宿-品川-烏森間に電車を運行し、大正 3 年（1914）には、上野-日暮里間の電車線を複線化している。明治 23 年（1890）に開通した貨物線も秋葉原方向へ延びている。そして、都電（上野線 1903 開業など）が登場している。

公園口の西には、絵画を陳列した美術協会（現日本芸術院会館）が、不忍池の北には第三回内国勸業博覧会（明治 23 年）で使用された商品陳列場が見える。寛永寺参道に架かる三橋はもうない。

【街歩き解説】

①湯島天神（几号水準点）

湯島天神（天満宮）は、もちろんのこと学問の神様として、そして境内の梅の花のことで知られる。明治期にイギリス式の測量にならって設置された几号水準点は鳥居に刻まれ

ている。女坂石垣には、日本で最初の本格的な水準測量を担当した大川通久寄進の刻みがある石積が見つけれられる。



台石に刻まれた几号水準点と大川通久寄進の石積

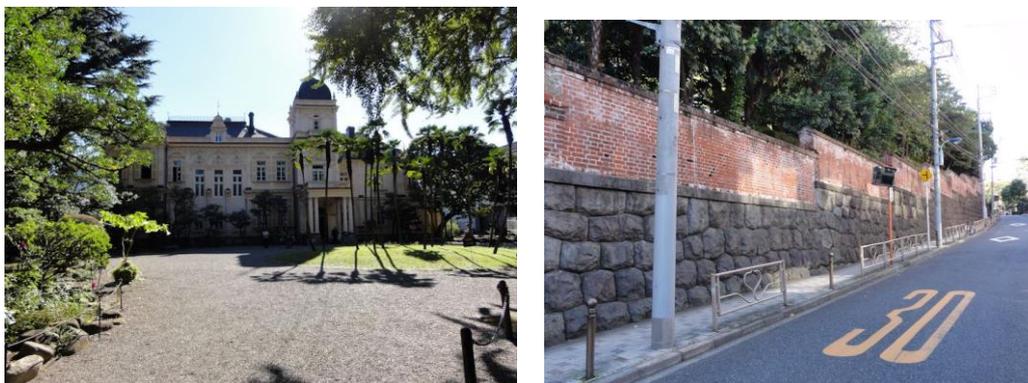
②旧岩崎弥太郎邸

わずかに切通し坂となった湯島天神中坂を抜けて、三菱財閥創業者の岩崎弥太郎の旧宅（設計：イギリス人建築家ジョサイア・コンドル）を訪ねる。

岩崎家には深川にもコンドルの建てた屋敷があったが、これは大震災で破壊されてしまった。けれども本郷の邸宅は残り、第二次大戦の空襲も免れた。戦後、岩崎邸は政府の手に移り、その大部分は最高裁の管理に委ねられた。最高裁は、これを取り壊して司法研修所と判事公邸とする計画であったが、文化財保護委員会が待ったをかけて現在に至る。

興味にもよるが、建物そのものはもちろんのこと、絨毯や壁紙、バルコニーからの眺め、当時としては珍しかった洋式トイレ、本館と地下でつながっているという撞球室など、みどころはいくらでもある。

邸宅の古いレンガ塀の向こうには無縁坂もい。



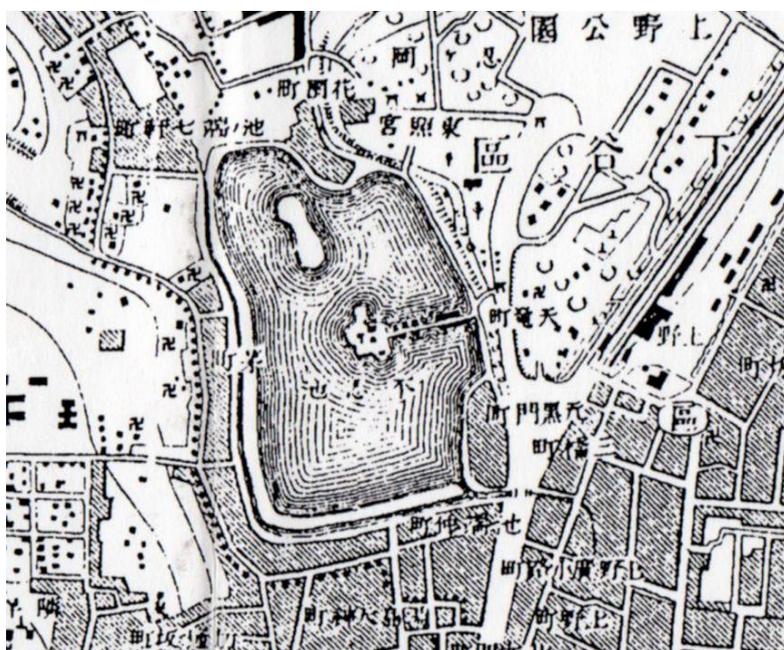
旧岩崎弥太郎邸・無縁坂

④藍染川（忍川）跡

境稻荷神社と弁慶鏡ヶ井戸を経て藍染川（忍川）跡へと向かう。境稻荷神社北側の井戸は、源義経とその従者が奥州へ向かう途中に弁慶を見つけ、一行ののどをうるおしたと伝えられるものである。

そして藍染川（忍川）は、不忍池の北にある文京区・江東区界の小路から不忍池の西へ回り込み、現野外ステージのある辺りを経て、下町風俗資料館方向へと流れていた。甘味の「みはし」の名や旧三橋町の名は、辺りに蓮見橋、花見橋、中橋と三つの橋が架かっていたことにちなむ、あるいは広小路から寛永寺へ向かう辺りに三橋という橋があったことに由来する（「江戸切絵図」参照）。後者の橋の名は、不忍池から流れ出る忍川に三つ並んで架設されていたことにちなむもので、将軍が寛永寺墓参の折に渡る橋なので、御橋といい、それが三橋に転訛した。三つの橋の真中は将軍専用で、両側の橋が一般の通用橋であったという。

明治17年（1884）に共同競馬会社による競馬場の建設に伴い、川は埋め立てられ、不忍池を周回する競馬が行われたのだ（明治25年廃止）。



不忍池あたり（1/20,000 地形図「上野」 明治13年）

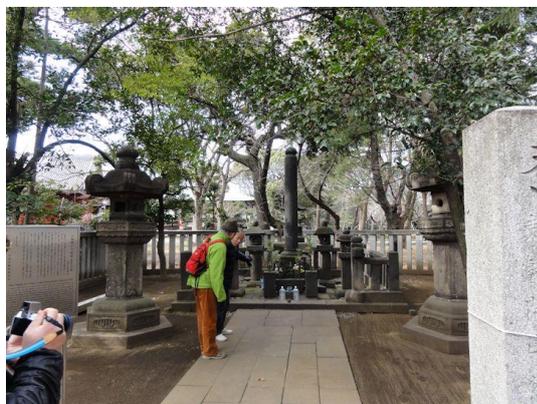
⑤上野広小路

幕府が火災の類焼を防ぐために、明暦の大火後に上野広小路が設置された。現在でも通りは広い。

⑥不忍池

縄文時代、この辺りは東京湾の入り江であったものが、海岸線が後退したときに取り残されて、池になったと考えられている。寛永寺が建立されたときに、不忍池を琵琶湖に見

立て、竹生島になぞらえた弁天島（中之島）と弁天堂を作ったという。弁天堂は、寛永寺を創建した天海僧正が建立したが、創建当時のお堂は戦災で消失し、現在の堂は昭和 33 年（1958 年）に再建したもの。ご本尊（八臂大弁財天）は、長寿や福德・芸能の守りとして信仰されている。八角形の堂の周辺には、芸などに関連した石碑が建つ。



不忍池・天海僧正毛髪塔

⑦黒門跡

上野には、黒門と呼ばれる門が三つあって、その一つは現上野公園入口辺りにあった寛永寺の黒門で、上野戦争の銃弾跡が残るそれは、現在南千住の円通寺に移築されている。当時辺りは江戸市民に開放されていたが、将軍の菩提寺であることから日没とともに門は閉じられたのだという。

二つ目の黒門は、旧寛永寺本坊表門で、現在輪王寺宮歴代墓所のある両大師堂輪王殿の門となっている。ここにも銃弾の跡が残っている。三つ目の黒門は、旧鳥取藩池田家屋敷門で、現丸の内から移築されたものである。

⑧清水観音堂

寛永 8 年（1631 年）に京都の清水寺に倣って建立された堂で、清水の舞台からは不忍池の蓮池が眺望できるように建てられている。境内には、古い大きな石灯籠がある。

⑨天海僧正毛髪塔

天海僧正は、江戸初期の天台宗の高僧で諡号を慈眼大師という。

11 歳で出家、14 歳で比叡山に学び、のちに江戸崎不動院（茨城県江戸崎町）、川越喜多院（埼玉県川越市）などにあり、徳川家康の知遇を受けた。元和 2 年（1616）家康が没すると、日光廟の基本的構想をたて造営を指導した。その後も将軍秀忠・家光の帰依を受け、江戸城鎮護のため上野忍岡に寺院の建立を進言し、寛永 2 年（1625）に寛永寺を創建した。

天海僧正は寛永 20 年（1643）に本覚院において 108 歳で死去した。遺命により日光に葬られ、この地（旧本覚院跡）に供養塔が建てられました。

素人は、そもそも天海僧正に毛髪があったのだろうか？と疑問に思う？

⑩彰義隊「戦死之墓」

上野戦争の彰義隊士の遺体は上野山内に放置されたが、南千住円通寺の住職仏磨らによって当地で荼毘に付された。明治 2 年寛永寺子院の寒松院と護国院の住職が密かに付近の地中に埋葬し、後に掘り出された。

大墓石は、明治 14 年に元彰義隊小川興郷らによって造立され、山岡鉄舟の筆になる「戦死之墓」の字が刻まれた。以後、120 年余小川一族によって墓所が守られてきた。

⑪西郷隆盛像

西郷隆盛の銅像は、明治 31 年に除幕された。高村光雲の作である。最初は宮城前の広場に建てる計画であったが、西南戦争で官軍に弓を引いたことがまだ多少のしこりになっていて、現在の場所へ変わったのである。未亡人はこの銅像が気に入らなかった。西郷が、あんなみすぼらしいふうをしていたことは一度もないと語ったという。ちなみに、連れてくる犬は「ツン」という名前だとか。

⑫上野の山と摺鉢山

上野の山と呼ばれるほどに、武蔵野台地の先端に位置する高台である。その最高峰が標高 24.5m ほどの摺鉢山。その摺鉢山は、約 1500 年前の前方後円墳といわれる。



摺鉢山・大仏（山）

⑬上野大仏

寛永 8 年（1631）に堀直寄によって寄進建立されたが、度々の地震や火災で破損した。最後に破損したのは、大正 12 年（1923 年）の関東大震災による頭部の落下。戦争中の金属

回収令によって頭部以外は供出したが、頭部だけが残った。寛永寺僧侶が密かに隠したためだという。その大仏様の頭部だけが保存されている。



上野大仏

⑭上野東照宮

寛永4年（1627）、藤堂高虎が造営した。その後、1651年に三代将軍・徳川家光が大規模に造営替えをしたものが現存する社殿である。東入り口近くに佐久間大膳亮勝之が東照宮に寄進した「お化け灯籠」と呼ばれる高さ6.06メートルもある大きな石灯籠がある。



寛永寺五重塔・お化け灯籠

⑮寛永寺五重塔

寛永寺五重塔は、寛永8年、土井利勝が寄進した塔は、寛永16年（1639）に焼失した。現在の塔は、焼失後に寄進されたもので、もとは上野東照宮の一部として、建てられたが、後に寛永寺の所属になった。今は上野公園内に位置している。

⑯（東照宮）几号水準点

几号水準点（柱石）は、南参道石段下鳥居そばにある。



(東照宮) 几号水準点・ボードワン像

⑰ボードワン像などの銅像

明治新政府が利用を決めていた上野の山は、オランダの一等軍医ボードワンの提言により明治6年に近代的な上野公園が生まれ変わることになった。したがって、ボードワンは上野公園の産みの親ともいえる人だが、母国であるオランダ政府からの資料誤りによって平成18年までは、博士の弟をモデルにした像が建てられていた。

(上野公園にあるそのほかの銅像) 世界的に有名な野口英世像、鳥羽・伏見の戦いや戊辰戦争に従軍した小松宮彰仁親王銅像、そして西郷隆盛像もある。



旧池田家屋敷門

⑱旧池田家屋敷門（黒門）

上野に残る黒門の一つ旧鳥取藩池田家屋敷門は、現丸の内から移築されたものである。屋根は入母屋造、門の左右に向唐破風造の番所を備えており、大名屋敷表門として最も格式が高いものである。東京国立博物館の敷地にはいると表門の内側に行くことができ、同敷地内には「黒田家の江戸屋敷鬼瓦」が置かれている。

⑲旧東京音楽学校奏楽堂

文部技官山口半六と久留正道の設計により、明治 23 年に竣工した日本最古の木造の洋式音楽ホール。二階にある音楽ホールは、かつて滝廉太郎がピアノを弾き、山田耕筰が歌曲を歌い、三浦環が日本人による初のオペラ公演でデビューを飾った由緒ある舞台である。正面のパイプオルガンは、大正 9 年に徳川頼貞侯がイギリスから購入し、昭和 3 年に東京音楽学校に寄贈したもの。



旧東京音楽学校・奏楽堂

⑳京成電鉄博物館動物園駅跡と寛永寺坂駅跡

昭和 8 年に日暮里から上野公園に乗り入れた京成電鉄は、博物館動物園駅と寛永寺坂駅を開駅し、昭和 54 年に営業を停止した。今も駅舎だけが残っている。



京成電鉄博物館動物園駅跡と寛永寺坂駅跡

(21) 黒田記念館

昭和 3 年（1928）に竣工。設計者は、当時、東京美術学校教授で建築を担当していた岡田信一郎である。岡田は、古今東西の建築様式に精通していたといわれ、歌舞伎座をはじめ、明治生命館や関東大震災後のニコライ堂再建など数々の作品で知られている。この記

念館は、中世ヨーロッパの貴族の館を参照したといわれている。外壁のスクラッチ・タイルが特徴的である。もちろん黒田清輝の作品を所蔵展示する。



黒田記念館・旧帝国図書館

(22) 旧帝国図書館（国際子ども図書館）

建物は、明治39年（1906）に帝国図書館として、久留正道により設計・建築され、昭和4年に増築された明治期ルネサンス様式の建物を再生・利用したもの。

そのほか公園内外には、明治10年（1877）に教育博物館として創立され、昭和5年（1930）現在地に移転してきた現国立科学博物館の日本館（1930年竣工）がある。そして、明治5年に文部省博物館として湯島聖に創立され、明治15年に上野へ移転してきた現東京国立博物館があり、そこには、明治42年（1909）開館の表慶館（設計：片山東熊）や昭和12年竣工し翌年に開館した本館（設計：渡辺仁）建物が特徴的である。

さらに、東京藝術大学 赤レンガ1・2号館、西洋美術館（設計：近代建築の三大巨匠フランスのル・コルビュジエ）、東京文化会館（設計：ル・コルビュジエの弟子前川国男）など見るべき建築物が多くある。

(23) 寛永寺

天台宗関東総本山の寺院で、正式には東叡山寛永寺円頓院とよばれる。開基は徳川家光で、初代住職は天海僧上である。芝増上寺とともに徳川将軍家の菩提寺であり、歴代将軍のうち家綱・綱吉・吉宗・家治・家斉・家定の墓所がある。



寛永寺・浄名院几号水準点

(24) 浄名院几号水準点

几号水準点は、浄名院境内入り口にある。境内には銅造の地蔵があるが、江戸六地蔵（品川品川寺、浅草東禅寺、新宿太宗寺、巢鴨真性寺、白河霊岸寺、富岡永代寺）に含まれないとか。

(25) 寛永寺坂駅跡

(26) 綱吉霊廟勅額門

綱吉の霊廟は宝永六年の十一月に竣工したが、それは歴代将軍の霊廟を通じてみても、もっとも整ったものの一つであった。ただ、その一部は維新後に解体され、第二次世界大戦で焼失した。この勅額門と水盤舎（ともに重要文化財）は、その霊廟と共にこれら災を免れた貴重な遺構である。勅額門の形式は四脚門、切妻造、前後軒唐破風付、銅瓦葺。



綱吉霊廟勅額門・家綱霊廟勅額門

(27) 家綱霊廟勅額門

家綱の霊廟の一部も維新後に解体され、第二次世界大戦で焼失したが、この勅額門と水盤舎は、その霊所と共に、これらの災いを免れた貴重な遺構である。勅額門の形式は四脚門、切妻造、前後軒唐破風付、銅瓦葺である。

(28) 寛永寺旧本坊表門（黒門）・両大師堂

上野に残る黒門の一つ旧寛永寺本坊表門は、輪王寺宮歴代墓所のある両大師開山堂に隣接して建っている。旧本坊表門は、明治11年帝国博物館（現在の東京国立博物館）が開館すると、正門として使われたが、関東大震災後、博物館改築に伴い、両大師開山堂に隣接する現在地に移建され、寛永寺輪王殿の門となっている。ここにも上野戦争の銃弾跡が残っている。



両大師像

(29) 上野駅（舎）

明治14年に開業した日本最初の私鉄「日本鉄道株式会社」の始発駅として開設された。

明治16年に、上野-熊谷が開通、翌17年には高崎まで開通し、天皇を迎えて正式な開業式が行われた。初代の駅舎は、明治18年に竣工し、レンガ造2階建てであった。現在も使われている 二代目の駅舎は、関東大震災の後の昭和7年（1923）に竣工した。それ以前、実質的に「半官半民」であった日本鉄道株式会社は、明治39年（1906）公布の鉄道国有法により国有化されていた。